

読書活性化フォーラム（日高ブロック）概要

令和3年1月29日（金）（オンライン開催）

1 テーマ

「子どもの読書活動をどう進めるか」

2 シンポジスト

ニセコ町教育委員会スクールコーディネーター	青山 智恵 氏
苫小牧市立北星小学校学校司書	山田 貴子 氏
浦河町立図書館主任司書	藤田 美穂 氏
読み聞かせの会「絵本のとびら」代表	野澤 みゆき 氏
全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー	大久保 雅人 氏

3 提言内容等

○ 青山 智恵 氏

- ・町の読書活動推進計画の作成に携わった際に大切にされたことは、「①行政が考えるモデルケースや理想を押しつけないこと」、「②常に持続可能な取組にすること」の2点である。
- ・読書活動推進計画を推進するために、特に大切なことは、町内の学校から理解と協力を得られるか、学校との「信頼関係」をいかに構築していくかが鍵である。そのために、学校の困り事の解決や、メリットとなることについて率先して実施した。
- ・児童生徒への読書活動への効果が見えてくると、学校との連携がスムーズになる。そこまでいかに多くの人を巻き込み、取組を継続していけるかがポイントになると考える。

○ 山田 貴子 氏

- ・市の政策により、小学校に学校司書を配置することになり、配置モデル校として本校に赴任した。本好きの子も、そうでない子も、気軽に足を運べる学校図書館を目指した。
- ・学校図書館の環境整備を進めた結果、児童の貸出冊数が大きく伸びただけではなく、本のジャンルも多様となり、児童の読書への興味・関心が高まったと考えている。

- ・学校図書館の環境整備だけではなく、学習指導支援として、教員と連携して授業の支援を行ったり、読書指導支援として読み聞かせ活動などの読書活動に取り組んだりしている。
- ・学校司書配置の効果が認められ、現在は、市内全ての小学校に学校司書が配置されている。

○ 藤田 美穂 氏

- ・読書の楽しさが広まるよう、「赤ちゃん絵本ひろば」や「小学生ビブリオバトル大会」など、町立図書館独自で様々な取組を進めている。2020年9月から、読書履歴を視覚化した「読書通帳」の制度も導入した。
- ・町内の学校とも、定期的に懇談の機会を設定し、読書活動や読書環境に係る要望やアイデアを交流し、それぞれの読書推進に役立てている。

○ 野澤 みゆき 氏

- ・小学校への読み聞かせ活動の取組を20年間、継続している。読み聞かせ活動を継続するために大切にしていることは「できる人がやる」である。会員に同一の行動を求めることはしないようにしている。
- ・図書指導員として派遣されている地元の高校では、学校図書館改革に取り組んだ。例えば、図書館は生徒の動線にあるべきと考え、事務室横から生徒玄関横の教室に引っ越しをするなど、生徒の身近な存在になるよう心掛けている。

○ 大久保 雅人 氏

- ・学校図書館には「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」の3つの機能があり、これらの機能が十分に発揮されるよう、学校図書館の計画的、継続的な利活用を図る必要がある。
- ・今後は、学校と地域、家庭が連携した読書活動の指導体制の充実が求められる。まずは、必要な時だけでもよいので3者の力を合わせる「協力」の段階から始め、必要な人やものを共有する「支援」の段階へ進み、計画段階から主体的に参加し、責任をもって役割を担う「協働」へと段階を経ながら進めることが望ましい。
- ・学校の教職員こそが「協力」「支援」「協働」の展望に立ち、地域人材と積極的に連携することが児童生徒の利益につながるという認識をもつ必要がある。